

人 チーム 制度



会社の男性社員で初めての育児休暇を取得。
現在は夫婦共働きで3人の子育てをするイクメンの先駆者

(株) 日水コン・奥村 豪彦さん

今回ご紹介するのは(株)日水コンで下水道事業の業務に携わる奥村豪彦さんです。2010年4月に日水コンの男性社員で初めて育児休暇を取得されました。現在、3人のお子様の育児に奮闘中です。

育児休暇を取得したきっかけを教えてください。

妻が第3子を妊娠し、出産予定日を聞いて私は驚きました。なんと、長男の小学校入学式と同じ2010年4月8日でした。第2子出産の時は、妻は2歳の長男を連れて石川県の実家に里帰りをしていましたが、今回は、学校生活が始まる長男を預けっぱなしにする訳にはいけなくなりました。

京都府に住む私の両親は農業を営んでおり、春先の忙しい時期に上京をお願いすることはできませんでした。もちろん私も仕事があるため、頭を抱え込んでいた時、妻が「男性でも育児休暇を取得できる」ことを教えてくれました。当時はまだイク(育)メンという言葉は無く、男性が育児休業制度を利用できることさえ私は知りませんでしたが、私がこの制度を利用するしか解決方法は無いと決心しました。

育児休暇を取得した時の仕事の対応は?

育児休暇の取得を決心した私はすぐに上司に相談をしました。上司も、男性が育児休業制度を利用できることを知らなかったようで驚いていましたが、快く承諾して頂きました。当時、私が担当していた業務は年度内には殆どが完了する予定であったため、年度が変わる4月に休暇をとることは時期的にも恵まれていました。ただし、年度をまたぐ業務については、すぐに補助の担当をつけてもらい、私の休暇中にもその業務が滞らないよう引き継ぎを行いました。また、完了した業務についても、お客様から問い合わせなどの連絡があるかもしれないため、部署内の誰もが対応できるように業務毎に書類を整理し、また、業務データの共有化を図りました。

プロフィール

氏名 : 奥村 豪彦
所属 : 下水道事業部
勤続年数 : 21年
資格 : 技術士(上下水道部門)
居住地 : 埼玉県所沢市
家族構成 : 同じ会社の妻 / 中3長男 / 中1次男 / 小2長女
勤務状況 : 通常勤務

経歴

1997年	(株)日水コン入社
2004年	長男誕生
2006年	次男誕生
2010年	長女誕生 育児休暇(1ヶ月)
2014年	技術士取得 (上下水道部門)

育児休暇中に苦労したことや困ったことは?

2010年4月3日(土)に長女が誕生し、私は同年4月6日(月)から1ヶ月間の育児休暇に入りました。5月連休に妻と長女が戻ってくるまで、息子2人との生活を送りましたが、苦労したという記憶は特にありません。ただ、慣れないうちは長男が、母親がいない寂しさで就寝前に泣く時がありました。そんな時は気を紛らわすため、絵本を読み聞かせました。文章をそのまま読むのではなく、面白おかしく読んだり、逆に怪談風に読んだり色々工夫しましたが、喜んでいたのは次男坊だけでした。1ヶ月の短い間でしたが、息子達はたくましくなった気がしますし、私も父親として育児と向き合う貴重な時間を過ごすことができました。

現在、妻との育児や家事の分担は?

育児についてはフレックスタイム制を活用して妻と分担しています。妻は朝早く出社し、早めに帰宅して子供たちの面倒を見ています。私は起床してから登校するまでの面倒を見てから出社しています。2017年4月には長女が小学生になり、長男が1歳の時から12年間続いた「保育園に送る」という役目を無事に終えました。

なお、家事については、私は平日の帰宅が遅く、休日は少年野球チームの指導者として活動しているため殆ど家にはおらず、正直なところ妻に任せっきりです。妻が遠方の出張などで仕事の帰りが遅くなる時にサポートする程度です。

これから男性が育児休暇を取得するためのアドバイス

たった1つしかない大切な自分の家族です。家族を守るために育児休暇を取得する意思を伝えれば、上司や同僚はそれを理解してくれるはず。また、一番大切なのは、休暇に入るまでの間に仕事のバックアップ体制を整えることだと思います。ちなみに、私が携わっている業務は、担当がお客様に対して責任を持って行動する「個人商店」のような体制になりがちです。しかし、私の会社では、現在、ワーク・ライフ・バランスを充実させるための一環として「個人商店化の脱却」を目指し、部署内での情報の共有や、万が一の時のバックアップ体制の確立に向けて日々取り組んでいます。

最後になりますが、私たち夫婦が現在まで仕事と育児が両立できているのは、ひとえに周りの皆様のご支援、ご協力のおかげです。心より深く感謝しております。